

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：基盤研究 (C) 一般  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18592445  
 研究課題名 (和文) 児童虐待予防のための地域ペアレンティング・プログラムの評価に関する研究  
 研究課題名 (英文) Research on evaluation of community based parenting program for prevention of child abuse and neglect.  
 研究代表者  
 柳川 敏彦 (YANAGAWA TOSHIHIKO)  
 和歌山県立医科大学・保健看護学部・教授  
 研究者番号：80191146

## 研究成果の概要：

虐待予防の観点から、子育て支援の家族介入プログラムであるトリプル P の有用性を検討した。和歌山 (15 名)、大阪 (20 名)、摂津 (25 名) に在住する 2 歳から 5 歳の子どもをもつ母親を対象にグループ・トリプル P を実施した。親が報告する子どもの困難な行動 (SDQ)、親の子育てスタイル (PS)、親の抑うつ、不安、ストレスなどの精神状態 (DASS)、親の子育ての自信 (PSBC)、夫婦間の関係の質と満足度 (RQI)、夫婦間の意見の衝突の程度 (PPC)、親の子どもへの不適切な行為 (JM) の 7 種類の質問票を用いて、介入前後、介入前と介入 3 か月後、および待機後の変化を比較した。結果、介入群 (n=60) で 5 つの質問票 (SDQ、PS、DASS、RQI、JM) で有意な介入効果が得られ、介入 3 か月群 (n=37) で 4 つの質問票 (SDQ、PS、RQI、JM) で有意な持続効果を認めた。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	2,600,000	0	2,600,000
2007 年度	400,000	120,000	520,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,700,000	330,000	4,030,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 地域・老年看護

キーワード：①児童虐待・②ペアレンティング・③ランダム化比較実験

## 1. 研究開始当初の背景

児童虐待は被害者である子どもはもちろん、家族にも深い心の傷を与え、その後のケアは容易ではないことから、早期発見および予防に有効な子育て支援が望まれている。1970 年代から児童虐待が深刻な社会問題となっている欧米諸国では、1980 年前後より親の育ちを支援する様々なプログラムが子育てへの教育的介入手段として実践され、ペアレン

ト・トレーニングあるいは、ペアレンティング・プログラムと呼ばれている。オーストラリア、クィーンズランド大学サンダースによって開発されたトリプル P (ポジティブ・ペアレンティング・プログラム) は、「前向き子育てプログラム」と呼ばれ、従来、評価が困難であった育児・子育ての領域に無作為化比較試験を用い、20 数年にわたる実証的研究を重ね発展したプログラムである。

## 2. 研究の目的

虐待予防の観点から、文化の違いを超えてわが国の複数の地域において、育児支援プログラムであるトリプルPの評価を行うことを目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1)対象と研究デザイン

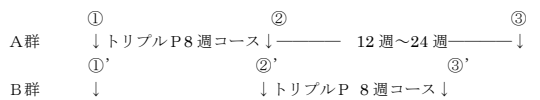
和歌山市および大阪全域、摂津市に在住の2歳～5歳児をもつ親を対象とした。なお、3地域の子どもの年齢、性別比、子どもの人数、養育者（母親）の年齢について表1に示す。

表1. 3地域の対象者の属性

	回答者数	子どもの年齢		子ども性別				子どもの同胞の数(本人含む)				母親の年齢	
		平均	SD	男子の割合	1人	2人	3人	4人	平均	SD			
和歌山 A群	15	5.23	1.64	50.0%	35.7%	50.0%	14.3%	0.0%	34.31	2.87			
和歌山 B群	15	5.20	1.74	57.3%	50.0%	78.6%	21.4%	0.0%	34.92	3.44			
大阪全域 C群	440	4.40	1.05	57.0%	40.0%	70.0%	20.0%	0.0%	31.30	2.95			
大阪全域 D群	410	4.20	1.67	57.0%	29.0%	60.0%	20.0%	0.0%	35.19	3.73			
摂津 E群	42	4.17	2.55	66.7%	58.3%	25.0%	8.3%	6.3%	31.75	3.52			

子育てスタイル (PS)、親の抑うつ、不安、ストレスなどの精神状態 (DASS)、親の子育ての自信 (PSBC)、夫婦間の関係の質と満足度 (RQI)、夫婦間の意見の衝突の程度 (PPC)、親の子どもへの不適切な行為 (JM) の7種類の質問票を用いて、介入前後、介入前と介入3か月後、および待機後の変化を比較した(図1)。

図1 : 研究デザイン



注) ① ② ③、①' ②' ③' で同じ質問票を繰り返し実施する

### (2) プログラム (トリプルP) の方法

幅広い子育て問題に対応するレベル4のグループトリプルPを導入手段とした。1グループは、8～13人で構成され、それぞれの地域で計2回ずつトリプルPを施行した。具体的には、1セッション(2時間)を週1回行い、計8セッション実施する。第1～4週で、教材にワークブック、ビデオまたはDVDを使用し、前向き子育ての考え方、子どもの行動記録のための講義、および対応スキル習得のためのロールプレイを行う。第5～7週では、電話セッションにより子育てスキルの実施状況の確認や改善策を話し合い、第8週で振り返りとまとめを行う。なお、プログラムを

提供するトリプルP事務局は、実施の標準化のためファシリテーター養成ワークショップを定期的に行っている。この養成ワークショップの参加者に認定試験を行い合格したもののみがプログラム実施が可能である。

### (3) 質問票

家族の構成など基本属性に加えて、以下の7種類の調査票を1冊の冊子にまとめた。和歌山、大阪は3回とも郵送により回収し、摂津は初回、説明会場で記入を行ったが、2回目以降は郵送により回収した。記載所要時間は、30～60分であった。

#### 【子どもの関すること】

①子どもの問題行動に対して、親が感じる難しさ (SDQ: Strengths and Difficulties Questionnaire, 25項目):SDQは、3～16歳の子どもの社会的に好ましい行動と難しい行動に対する親の認識を測る行動審査尺度である。5領域(感情的症状、行為問題、不注意/多動、交友問題、社交的行動)について評価を行う。各領域の最低スコアが0で、最高スコアが10である。難しい行動の総合スコアは社交的行動スケールを除く4スケールのスコアを合計することで計算され、社交的行動は好ましい行動(長所)として評価される。

#### 【親に関すること】

②親の子育てスタイル(PS: Parenting Scale, 30項目):PSは、3つの子育てタイプ、「手ぬるさ」(寛容すぎるしつけ)、「過剰反応」(権威主義的なしつけ、怒り、意地悪さ、短気を面に出す)、「多弁さ」(過剰に長い叱責、または話しに頼る方法)および総合スコアを評価する(表2-②)。

③親の子育て適応感=精神状態 (DASS: Depression Anxiety Stress Scales, 42項目): DASは、大人の抑うつ、不安、ストレスの症状を測る尺度である。各3スケールの最低スコアが0で、尺度の最高スコアが42である。

④親の子育てに関する自信の程度(PSBC: Problem Setting and Behaviour Checklist, 28項目): PSBCは、親の子育てに関する自信の程度を測定する尺度である。

#### 【夫婦間、パートナーとの関係に関すること】

⑤パートナーとの関係についての満足度(RQI: Relationship Quality Index, 6項目): RQIは、パートナーとの関係の質と満足感を示す指標である。初めの5項目は7点スケールで計られ、関係の幸福度の包括的評価は10点スケールで測られる。総スコアは各6項目の点を合計する。最低スコアは6、最高スコアは45で、高得点になるほどより前向きな関係を示す。極端に低いスコアは、



(5)今後の課題

トリプルPの特徴は、あらゆる親を対象に設定されていることである。さらにグループで施行するレベル4のトリプルPは、客観的な指標を利用した評価を行うことに特徴をもち、集団的評価に基づいて発展してきたものであるが、個人的に評価内容を還元することが可能である。この意味でもプログラムの単なる施行のみでなく、客観的な評価を心がける必要があり、地域、対象、目的を考慮した質問票の整備など、さらに評価方法の検討が今後も必要であると考え。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2件)

1. 柳川敏彦、平尾恭子、加藤則子、北野尚美、上野昌江、白山真知子、山田和子ら：児童虐待予防のための地域ペアレンティング・プログラムの評価に関する研究「前向き子育てプログラム(トリプルP)」の有用性の検討、子どもの虐待とネグレクト、第11巻、54-68、2009
2. 柳川敏彦：虐待発生予防のための保健活動－欧米の動向から－、保健の科学、第49巻第1号、47-53、2007

[学会発表] (計 7件)

1. 柳川敏彦、家本めぐみ、平尾恭子、北野尚美、白山真知子、上野昌子ら：児童虐待予防のための地域ペアレンティング・プログラムの評価に関する研究。第14回日本子ども虐待防止学会 2008.12, 広島
2. 加藤則子、石津博子、益子まり、藤生道子、塩澤修平、柳川敏彦：川崎市における子育て支援のためのトリプルPの導入と評価。第14回日本子ども虐待防止学会 2008.12, 広島
3. 志村光一、梅野裕子、加藤則子、始関桃子、柳川敏彦：Triple P 前向き子育てプログラム」普及モデルと日本での試み。第14回日本子ども虐待防止学会 2008.12, 広島
4. 加藤則子、石津博子、益子まりら：川崎市におけるグループトリプルPの取り組み。日本公衆衛生学会 2008.11, 福岡
5. 益子まり、石津博子、鈴木昌枝、加藤則子：川崎市におけるグループトリプルPの取り組み。第55回日本小児保健学会、2008.4, 北海道
6. 加藤則子、蓮 桃子、柳川敏彦ら：前向き子育てプログラムの試行的実践とその評価。第111回日本小児科学会、2008.4, 東京
7. 北野尚美、柳川敏彦、中村安秀、平尾恭子、吉川徳茂：日本人家庭における親から子への不適切な行為に関する研究。第13回日本子ども虐待防止学会、2007.12, 津市

[図書] (計 1件)

1. マッシュ・R・サンダース(著)、柳川敏彦、加藤則子監訳)：エブリ・ペアレント 読んで使える「前向き子育て」ガイド。明石書店、東京、2006

[その他]

ホームページ

- ・トリプル P ジャパン ホームページ  
<http://www.triplep-japan.org/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

柳川 敏彦：和歌山県立医科大学保健看護学部・教授 80191146

(2)研究分担者

加藤 則子：国立保健医療科学院研修企画部・部長 30150171

上野 昌江：大阪府立大学看護学部・教授 70264827

平尾 恭子：大阪府立大学看護学部・講師 20300379

山田 和子：和歌山県立医科大学保健看護学部・教授 10300922 (18-19年度)

(3)連携研究者

山田 和子：和歌山県立医科大学保健看護学部・教授 10300922 (20年度)